

3.11東日本大震災からの 木を活かした学校復興

津波被害により移転復興する公立小中学校数20校。
漸く姿が見えた。

「学校が建設されることによって、子供たちが再び学び始めるることは、地域が災害を乗り越えて、復旧・復興に歩み出す象徴的な第一歩となりうるものである。」

「熊本地震を踏まえた学校施設のあり方に関する緊急提言」(2016.7 文部科学省)

81

岩手県大船渡市

地域の人々の想い

1. 安全な高台に
2. スピードを速く

その気持ちは受け止めながら、こういう時こそ百年の計
学校づくりの今日的課題に対し、目標を見失わずに

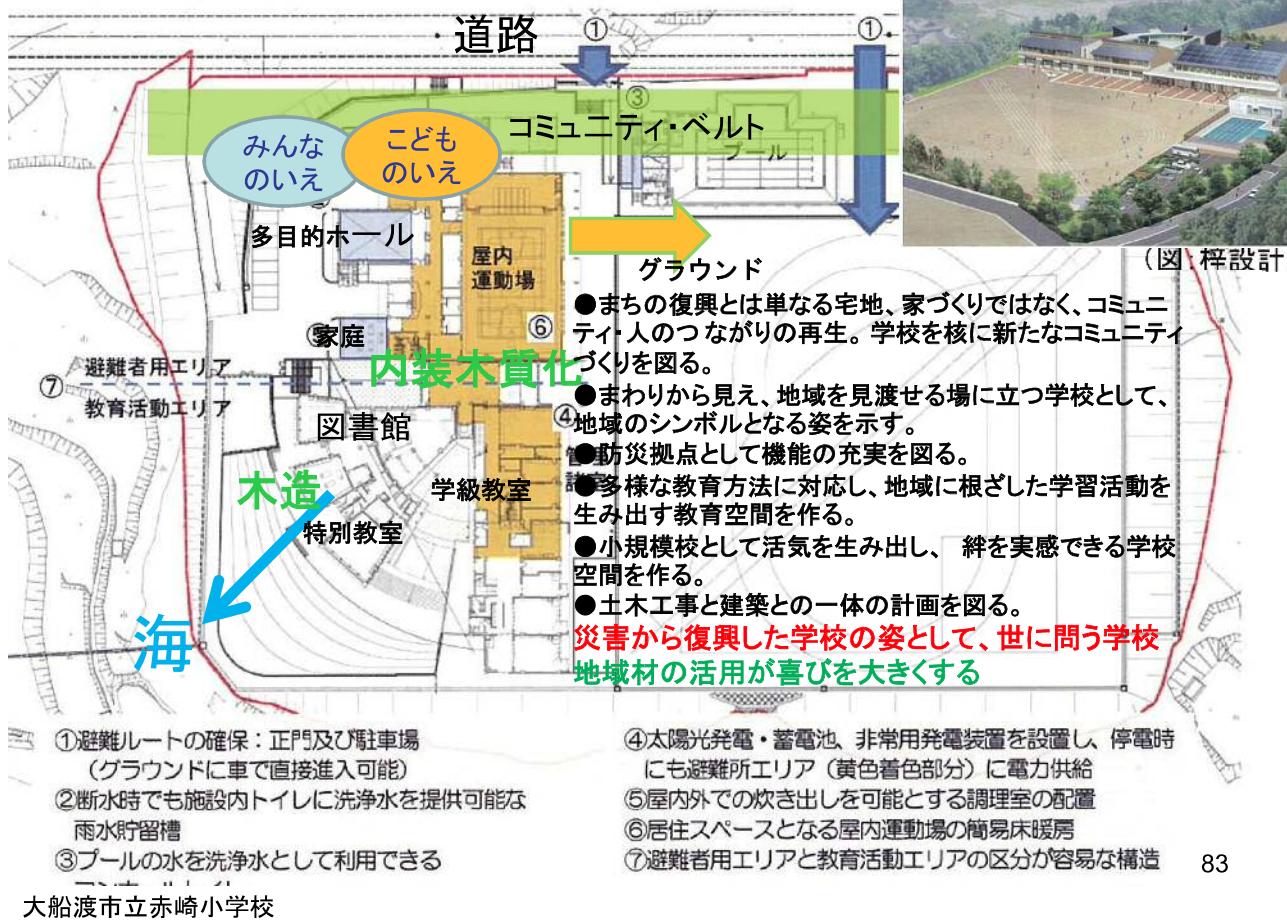
- ①教育空間の多機能化・高機能化、ICT化
- ②小学校と中学校の連携
- ③学校と地域の連携
- ④地域の防災拠点
- ⑤エコスクール・ゼロエネルギー化
- ⑥木材の活用
- ⑦長寿命化

学校の復興を岩手の木と、岩手の力で
語り継がれる学校づくりを

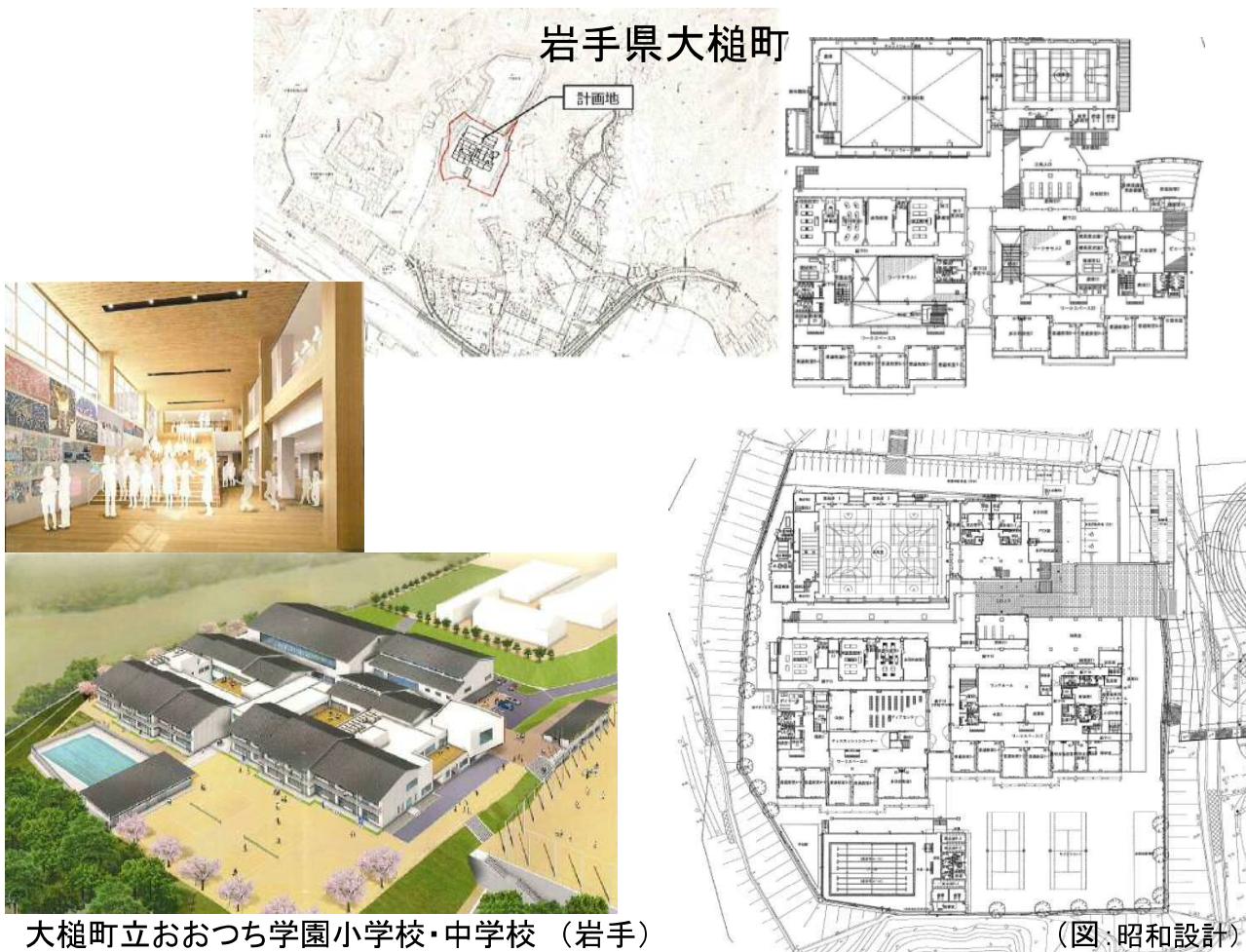


大船渡市赤崎小学校・赤崎中学校





大船渡市立赤崎中学校





陸前高田市立気仙小学校(岩手)

図:綾井・土屋・IEE設計共同体

宮城県東松島市

「森の学校」で心身をたくましく



東松島市立宮野森小学校（旧野蒜・宮戸統合小学校）

(図・写真：シーラカンスK&H)

宮城県山元町



山元町立山下第二小学校（宮城）（図・写真：佐藤総合計画）



避難者対応

宮城県石巻市



復興住宅・低層

石巻市立渡波中学校(宮城)

(図：久米設計事務所)



雄勝地区統合小・中学校 関空間設計・アルセッド

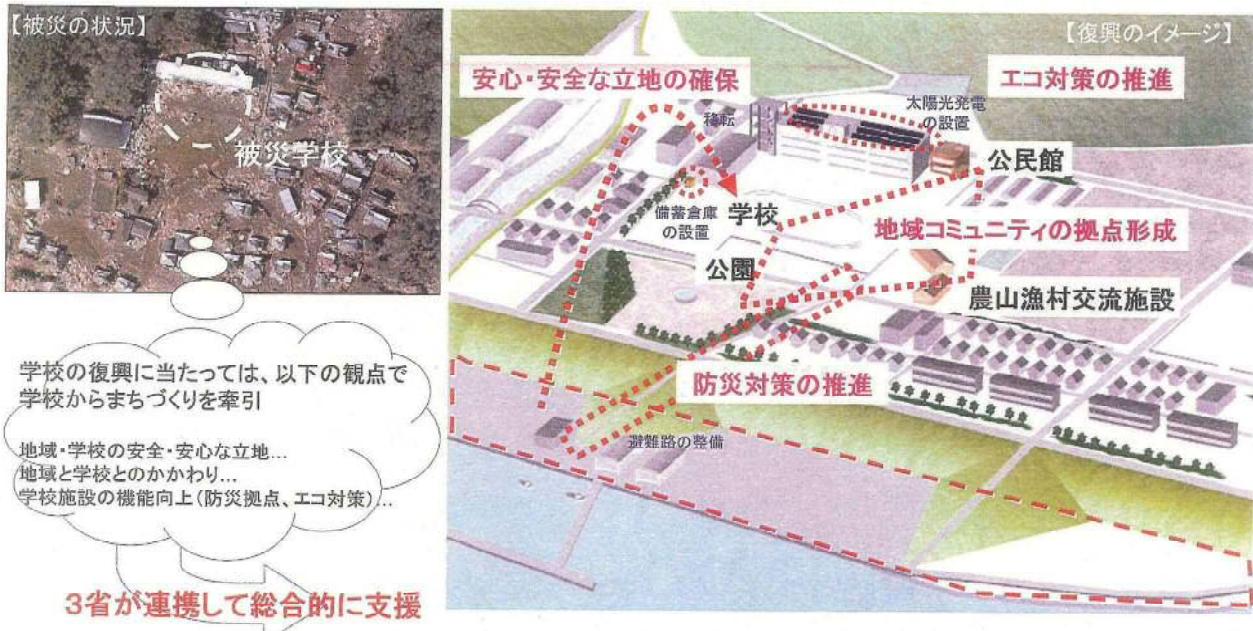


石巻市雄勝地区統合小中学校ワークショップ

学校の復興とまちづくり

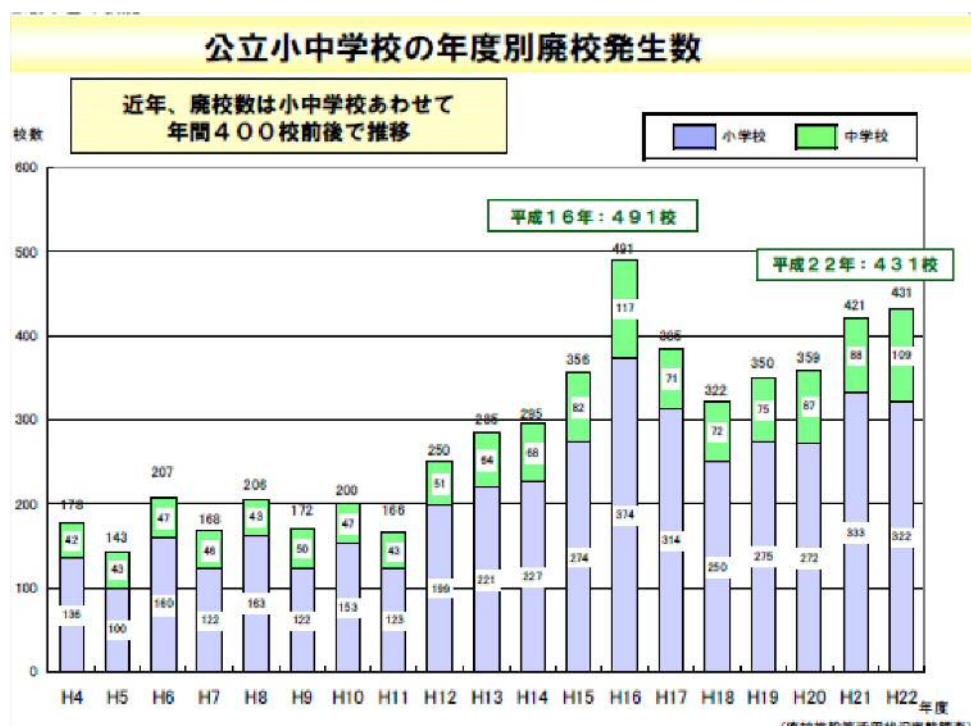
文部科学省、農林水産省、国土交通省
- 3省連携による復興支援 -

学校の復興とまちづくりの連携を推進し、学校の安全・安心な立地、学校と地域との関わりの深化を図るとともに、特に環境への配慮及び防災対策等の観点から、ゼロエネルギー化・木質化等を推進するエコスクールの整備、地域の防災・避難拠点の整備等を推進するため、文部科学省と農林水産省、国土交通省が連携し、第3次補正予算等を活用して、被災自治体の取組を総合的に支援。



1

地域における学校とは—学校の統廃合を考え直す



文部科学省

小学校区など、複数の集落が集まる地域において、商店、診療所などの生活サービスや地域活動を、歩いて動ける範囲でつなぎ、各集落とコミュニティバスなどで結ぶことで、人々が集い、交流する機会が広がっていく、新しい集落地域の再生を目指す取組み



13

地域で生きる力は、地域の環境の中で、
学校は村民全ての施設



村役場・保育園と一体の学校 児童数14人



全校1学級、児童数18人
Duvin, スイス



Peter小学校 グラウブンデン州・スイス

学校を核としたまちづくり

1. 生きがいを持って暮らせる地域づくり
2. 安心して住み続けられる地域づくり
3. 地域コミュニティの形成、維持
4. 地域文化・芸能の継承
5. 持続可能な地域づくり

自立的な地域づくり、地域間連携、広域連携

建築、エネルギー、森林保全

木を循環資源として生かす

—学校は地域の核としてとらえられる

—学校と他の公共施設との連携・複合により地域の核を作る

—精神的にも活動面でも学校は地域の支えとなる

—地域の将来を担う子供を地域で育てる

地域材による木の学校づくり

* 学校の統廃合一学校に代わる地域のプラットフォームづくり

97





「学校は教育施設ではない。学校は学校だ」

吉武泰水

99
聖籠町立聖籠中学校